

書評

Photo & Essay 船の顔写真

池田良穂著

船と港編集室 2020年6月発行

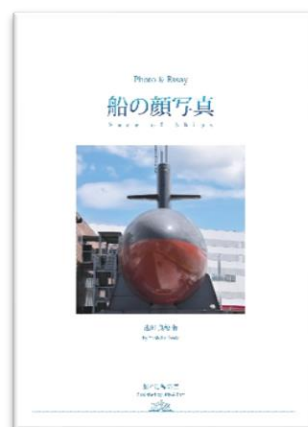
A4版カラー68頁 1600円

とてもユニークな本で、ああこういう本もあるのだなあ、というのが第一印象でしたが、読み進みますうち、成程と感心し、その世界に引き込まれました。コンセプトに力のある本です。

全ての船が面白かったのですが、特に心に残りましたのは、小樽の「にっぽん丸」、ラムスゲートの「プリンセセ・マリー・チャルステイン」、対馬博多の「フェリーげんかい」、ボスポラス海峡の「ウスクダー」、そして「ベトナム・ハロン湾の観光船」でした。

「フェリーげんかい」は離島航路を背負って走り続けた風雪の重みが滲み出ているような気がしました。また、「ベトナム・ハロン湾の観光船」は特定の船の写真ではありませんでしたが、出港/帰港する船たちの営みが、島々の水墨画のような風景を背に写されていて、心休まる一枚でした。

渡辺孝則



小樽港の「にっぽん丸」



「フェリーげんかい」



「ウスクダー」



「プリンセセ・マリー・チャルステイン」



ベトナム・ハロン湾の観光船

